刀剣界

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL

2023.1.15　No.65

発行人　深海　信彦
発行所　全国刀剣商業協同組合 編集委員会
〒169-0072 東京都新宿区大久保２－18－10
新宿スカイプラザ1302
TEL:03(3205)0601　FAX:03(3205)0089
http://www.zentosho.com/

第65号編集担当　赤荻　稔　飯田　慶雄　伊波　賢一　大平　岳子　嶋田　伸夫　清水　儀孝　生野　正　瀬下　明　土子　民夫　綱取　譲一　土肥　豊久　服部　暁治　深海　信彦　松本　義行　冥賀　吉也　持田　具宏　吉井　唯夫

「大刀剣市2022」三年ぶりで 東京美術倶楽部を会場に 開催

全国刀剣商業協同組合の共同販売事業である「大刀剣市」は、去る十一月十八～二十日の三日間、東京美術倶楽部を会場に三年ぶりで開催されました。

今から三年前に流行が始まった当時、新型コロナウイルスは〝死に至る病〟と恐れられていましたが、第七波の流行期も収束に向かう中、万全を期しての開催です。

初日のオープニング前には、うれしいことに一階入り口にお客さまの行列ができており、これから三日間の盛況を予告するかのようでした。まさしく好調な出だしとなり、大物が売れたとの噂が、会場を駆け巡ったりもしていました。

受付で販売していたカタログも好評で、中日には早くも完売。掲載された刀や刀装具もよく売れたそうです。

入場時、お客さまには検温と手指消毒を励行していただきましたが、立ち会っていた担当役員によると、「三日間で一番高かった方が三十七度二分」だったとか。「わざわざ足を運んでくれたお客さまに〝お帰りください〟なんていやだもんね」と言っていました。

事前説明会で実行委員の説明に耳を傾ける出店者

ちなみに入場者数は、初日八二三人、二日目七三三人、三日目五二二人で、合計二〇七七人。例年に比べると七〇～八〇％というところでしょうか。どうしても遠方からのお客さまの足は鈍く、最終日の悪天候も響いてしまいましたが、これはこれで立派な数字だと思います。

出店者とスタッフ全員の「大刀剣市が最後まで何事もなく円滑に運営されますように」との思いが天に届いたようで、無事にフィナーレを迎えることができました。

今年の開催は十一月十七～十九日の三日間となりました。安心・安全で、一層活況を呈する大刀剣市になることを願っています。

（持田具宏）

「大刀剣市2022」事前説明会開く

「大刀剣市2022」の開催に先立ち、十月十九日、会場となる港区新橋の東京美術倶楽部において事前説明会を開催しました。

当組合が大刀剣市を開催する意義は、組合員の経済活動を促進して組合員および業界の経済的・社会的地位の向上を図るとともに、顧客に対するサービスの向上に努め、併せて事業を通じて社会貢献をすることにあります。

事前説明会を開く趣旨としては、その意義をあらためて確認するとともに、出店者が一堂に会して一致団結を期すこと、さらにご来場者に満足していただける環境づくりや、事故やトラブルを生じさせない対策の確認など、あらかじめ綿密な打ち合わせをしておく必要があるからです。

今回は特に新型コロナウイルス感染下ということがあり、監督官庁からも感染対策に関する大きな指導要綱が送られてきました。事前説明会への出席は、従来から出店条件の一つであります。

冒頭、深海理事長から、各担当者からの報告やお願いについてご理解いただき、三年ぶりの大刀剣市をぜひ成功に導いていただきたいとの挨拶が述べられました。

次いで綱取実行委員長から、今回の説明会の概要と、出店者の会期中の昼食に関する説明がなされました。

特に会場側からお客さまの飲食の自粛厳守が伝えられている現状で、関係者の食事をいかに確保するかは、大いに腐心するところとなりました。

次に嶋田理事からは、出店ブースに関する件や、四階食堂の撤去と休憩スペース、同階の銘切り実演などについて説明されました。

伊波理事からは広告・広報や、最終日に会場周辺で行われる「みなとハーフマラソン」により交通規制がかかる旨の説明がありました。

持田理事からは防犯セキュリティー対策について、飯田理事からはカタログおよびウェブカタログの進捗状況について、服部理事からはクレジットの取り扱いについてそれぞれ説明されました。

最後に土肥副理事長の閉会の挨拶があり、内容のある約一時間の事前説明会を終えて、出店者それぞれが大刀剣市を成功させるべく胸に誓い、散会しました。

（清水儀孝）

第34回「大刀剣市」出店者一覧

○印は説明会出席者

屋号	代表者	○印
㈱銀座 長州屋	深海　信彦	○
銀座 丸英	瀬下　昌彦	○
刀剣 杉田	杉田　侑司	○
霜剣堂・黒川	黒川　精吉	○
刀剣 はたや	籏谷　三男	○
銀座 日本刀ミュージアム 泰文堂	川島　貴敏	○
㈱日本刀剣	伊波　賢一	○
コレクション情報	村上和比子	○
勝武堂	大平　岳子	○
㈱永和堂	朝倉　忠史	○
藏屋はしもと	橋本建一郎	○
京都むらかみ	村上　昌弘	○
平成名刀会	鈴木　雅一	○
神田 藤古堂	藤田　一男	○
㈱晴雅堂 清水	清水　儀孝	○
静心堂 芦澤	芦澤　一幸	○
㈱三明貿易 刀剣徳川	福岡　勇仁	○
木村美術刀剣店	木村　義治	○
㈱安東貿易	安東　孝恭	
銀座誠友堂	生野　正	○
㈱城南堂古美術店	田中　勝憲	○
銀座 盛光堂	齋藤　恒	○
長谷宝満堂	蛭田　道子	○
古美術草分堂	草分　一雄	○
慶長堂	ヒューズ・ロバート	
札幌 横山美術	横山　忠司	○
㈱日宝	田澤　二郎	○
㈱美術刀剣みらい	中永　善之	○
刀剣 坂田	坂田　哲之	○
もちだ美術	持田　具宏	○
尚佳洞	深津　尚樹	○
一文字商会	古屋　祐介	○
㈱美術刀剣 松本	松本　義行	○
江州屋刀剣店	小暮　舜一	
福隆美術工芸	綱取　譲一	○
㈱紀の国屋	佐孝　宗則	○
イー・ソード	平子　誠之	○
㈲栗原金庫製作所	栗原　春吉	
㈲濃州堂	五十嵐啓司	○
古美術刀剣 山城屋	嶋田　伸夫	○
つるぎの屋	冥賀　吉也	○
飯田高遠堂	飯田　慶雄	○
刀剣 高吉	高島　吉童	○
日本刀 籏谷	籏谷　大輔	○
服部美術店	服部　暁治	○
大宮 清水商会	清水　敏行	
古美術 成蹊堂	松川浩一郎	○
㈱永楽堂	木村由利子	○
大阪刀剣会 吉井	吉井　唯夫	○
㈱むさし屋	猿田　慎男	○
新堀美術刀剣	新堀　孝道	○
大和美術刀剣	大西　康一	○
儀平屋	今津　敦生	○
㈱杉江美術店	杉江　雄治	○
一文字堂	美濃部政人	○
玉山名史刀	玉山　真敏	○
刀剣佐藤 倉敷刀剣美術館	佐藤　均	
㈱和敬堂	土肥　豊久	○
筑前刀剣堂	黒川　宏明	○
恵那秋水会	松原　正勝	○
川越 優古堂	三浦　優子	○
㈱舟山堂	稲留　修一	○
真玄堂	高橋　歳夫	○
刀箱師 KATANA CASESHI	中村　圭佑	○
（一社）日本甲冑武具研究保存会 組合甲冑コーナー		

古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定
㈱城南堂古美術店
代表 田中 勝憲
〒153-0051
東京都目黒区上目黒四－三一－一〇
TEL ○三－三七一○－六七七六
○九○－三二○八－九六一二
FAX ○三－三七一○－六七七七

刀買取委託
e sword　イーソード
〒350-1115 埼玉県川越市野田町 1-4-19 1F
TEL 049-246-6622 FAX 049-246-1407
刀通販サイト
www.e-sword.jp
日本刀 イーソード 検索
mail:info@e-sword.jp
㈱ e-sword（イーソード） 平子誠之

刀剣・書画・骨董
和敬堂
土肥豊久・土肥富康
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511
http://wakeidou.com/

刀剣 高吉
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!
連絡先 090-8845-2222
代表者 髙島吉童
東京都北区滝野川７-16-６
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp

銀座日本刀ミュージアム
泰文堂
〒104-0061 東京都中央区銀座６－７－16
岩月ビル２階
㈱銀座泰文堂　代表 川島貴敏
TEL 03-3289-1366
FAX 03-3289-1367
http://www.taibundo.com

令和5年1月15日発行　刀　剣　界　第65号

撮影／トム岸田

出店者から①
バタバタ、ワクワクの三日間
美濃部政人（一文字堂）

この度は伝統と格式のある大刀剣市に出店させていただき、ありがとうございました。

体験記をとのことで、体験というか体感なのですが、バタバタしていてなんだかよく覚えていないです 以上！・というのが本当に正直な話です。気付いたら、最終日の片付け一時間前でした。これはおそらく雨で流れがそうなっただけで、晴れていたら最後までバタバタだったんだと思います。

自店での出店は今年が初めてですが、前回までは搬入・営業・搬出と、師匠の店（刀剣はたや）の手伝いで参加させていただいていました。

ディスプレイに関しても、一から作り上げるつもりは毛頭なく、まずは同じ感じ、真似できるところはできるだけ真似をして…のつもりでやっていたはずですが、現実にはバタバタでした。思うに、以前は師匠に言われたことだけやっていれば良かったのが、今回は自分で考えて自分で決断して自分で行動して…と、自分で全部やらなければいけない。別段長考するわけでもないし、大した決断でもないのですが、気付くと結構な時間が過ぎていて、かなりのエネルギーが持っていかれていました。

バタバタなんだけど楽しい。充実している。あの大刀剣市に出店するんだ、しているんだと思うと楽しくて嬉しくてしょうがない。師匠の出店を手伝いながら、自分で大刀剣市に出店するまでと言って手伝わせていただいていたが、とうとうこの時が来たんだ！と長年の夢をかなえました。

売上は出店料と人件費が何とか賄える程度でしたが、次の目標①五百万円を売り上げる、②重要刀剣を扱う、③一文字を扱う、を目指してがんばります！

お客さまと歓談する美濃部さん

出店者から②
大刀剣市初出店を終えて
中村圭佑（刀箱師）

刀箱師（かたなはこし）として刀の展示ケースを製作している中村圭佑と申します。この度、大刀剣市に初出店させていただきました。

出店に当たり、多くの刀剣店の皆さまからご指導ご鞭撻を賜り、やり遂げることができました。誠にありがとうございます。

大刀剣市出店は、私が刀箱師として活動をスタートした四年前からずっと目標にしてきたことであり、今回貴重なチャンスを頂けましたこと心より感謝申し上げます。

注文も十台ほど頂くことができ、何よりたくさんの来場者の方と対面でお話できたことは、とても実りの多い経験となりました。

私は普段、刀の展示ケースを製作するかたわら、刀についてのブログを毎日書いたり、ツイッターやフェイスブック、インスタグラムといったSNSで「刀のある暮らし」について発信しています。素人の視点で刀の魅力を多くの方、特にまだ刀を所持していない初心者の方に届けたいという思いから始めたことです。

肌感覚ではありますが、国内外問わず今回、私のブースに来てくださった方の七割ほどは私のSNSを見てくださっていた印象です。あらためてSNSの重要度を認識した次第です。

来られた方には制作したカタログを配布させていただきましたが、その減り具合から、三日間でおそらく五百名ほどがブースに来てくださったと思います。中には何度も来てくださったり、「〇〇店で刀や刀装具を買ったよ」と作品を持ってきて展示ケースに飾ってみる方も多く、私も愛刀家の方々との交流を楽しめました。

一方、海外では既に私の刀展示ケースの見た目だけを完全に真似た模倣品を製作している方もおり、その場で細かい情報を吸い出そうとする方もいました。この事態は公の場に出す上で予想はしていたものの、模倣品が本歌を越えることはないので、私としても張り合いがありません。ぜひオリジナルのものを製作され、お互いに競い合いたいものです。

来場者の中心は例年六十歳代以上の男性が多い印象でしたので、金庫や刀簞笥での保管が当たり前という感覚のところに、部屋に刀身を飾るという試みを提案することそのものに、酷評も多く頂くだろうと覚悟をしていました。しかし、予想とは裏腹に、面白いね、良いね、綺麗だね、考えられてるね、などといったポジティブな意見をその世代の方からも頂けたことは嬉しかったです。

これからも「刀とくらす。」というコンセプトの下、日常で愛刀を楽しめる空間を作り出していきます。

今の子供たちが日常で刀の美しさに気付ける場所や機会、そんな偶然の刀との出会いの場を作り広めていくことが、十年、二十年先の愛刀家を生むと、私は信じています。床の間がなくなり、刀を飾るスペースがなくなったのなら、今の住宅に合うものを作ればいい。

日本の文化であり、魂として伝えられてきた日本刀の魅力を、多くの日本人にもう一度気づいてほしく思います。

来年も大刀剣市に出店して良いと言っていただけるよう、次の一年もまた精進いたします。

中村さんと自作の展示ケース

日本刀の
江州屋
名品・名刀を販売
店主　小暮　舜一
〒529-1315
滋賀県愛知郡愛荘町沓掛80-1
TEL　0749-42-2736
携帯　090-3162-7641
http://www.goushuya-nihontou.com

令和5年1月15日発行　**刀　剣　界**　第65号

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、**記事を募集しています**。ニュースや催事情報、イベント・リポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

「刀剣評価鑑定士」に期待される役割と組合の使命

深海　信彦

■全国中小企業団体中央会（東京都中央区新川一―二六―一九）は、わが国事業所の大半を占め、かつわが国経済社会の基盤を形成している中小企業の振興発展を図るため、その組織化と連携によってさまざまな支援を行っているわが国最大の中小企業団体であり、当組合も会員として長年指導を頂いてきた。その中央会から先ごろ「会員団体の取り組みの先進事例として貴組合を紹介したいので」と、深海理事長に寄稿の依頼があった。そこで、傘下二万七千の組合・団体、約二百三十万企業で購読されている機関誌『中小企業と組合』一月号への掲載内容を、原文のまま、以下に転載する。

全国中小企業団体中央会
機関誌『中小企業と組合』

今日ほど「資格」の問われる時代はないと言っていいだろう。

資格と一口に言っても、①法律に基づき、国や国の委託を受けた機関が認定する国家資格、②所轄省庁や大臣が認定した審査基準に基づき、地方自治体や公益法人、民間団体等が試験を行い認定する公的資格、③民間団体や企業が独自の審査基準を設けて認定する民間資格に大別され、その数は①＋②で約一千件、③まで含めると三千～五千件に上るというから、まさに〝国民総資格社会〟とも言えよう。

資格とは、何らかの仕事を依頼する側にとって信用度を推量する物差しであって、これからも多様化・細分化していくであろうニーズに応えて、さまざまな資格が誕生していくと思われる。

★認定資格創設の経緯

当組合は、刀剣を中心に武家道具全般を扱う刀剣商によって組織された事業協同組合である。その刀剣商が日々仕事の頼りとしている資格は唯一、「古物商許可証」である。

職業分類上、骨董商・古美術商の一部としか見られなかった往時の状況を顧みれば、刀剣商として自立したとはいえ、古物営業法が規定する〝古物〟は今やきわめて多岐にわたり、リサイクルショップや金券ショップ、OA機器のレンタル店までが古物商に含まれる。

古物商許可証以外の固有資格などないからこそ、長年の経験と努力で培われた鑑識眼や信用がものを言うとの声がある一方、一千年の伝統を有し、わが国の工芸品の中で国宝・重要文化財に最も数多く指定されている日本刀が、自称〝刀剣商〟や○○整理士、△△アドバイザー等によって安易に売買され、時には処分されている現実を見過ごしてよいのかとの危惧も大きかった。

また、刀剣商の〈社会的・経済的地位の向上〉も重要な目標の一つであるが、それには国内外の顧客との信頼構築が一層不可欠であり、そのために今やるべきこと、できることは何なのかを、長い時間をかけて組合内で議論を重ねてきた。

そうした経緯を踏まえ、平成二十八年五月の通常総会において、新たに「刀剣評価鑑定士」資格認定事業を満場一致で可決。時機到来、スタートを切ったのである。

★試験の実施から認定・活用まで

本資格の目的は「刀剣商として必要な知識・技能を明らかにし、その向上を図るとともに、刀剣の評価・鑑定に関する必要かつ十分な能力を認定する事業を通して、組合員ならびに本組合の社会的信頼と地位の向上を図り、もって刀剣の普及と発展に寄与すること」（規約）である。

試験内容を検討する上で、刀剣商に求められる要件をあらためて検討してみると、これが事前に想定した以上に広範囲にわたり、主として、①刀剣、②刀装・刀装具、③甲冑・武具、④作刀、⑤刀職、⑥評価・鑑定のそれぞれの基礎知識、さらに、⑦銃砲刀剣類所持等取締法ほか関係法令・通達、⑧古物営業法、⑨その他法律・通達、（特定商取引法・消費者契約法など）等も出題することとなった。

ただし、試験の難易度を上げて不合格者を輩出することが目的ではないので、出題形式は二肢択一方式とし、試験時間六十分、百問中八十問に正解すれば合格とした。

作問は本プロジェクトの委員二十名がそれぞれ百問ずつ持ち寄り、全員で内容を検討。度重なる討議の結果、約一千問の精選問題が作成された。

加えて、その試験問題の公平性・普遍性を担保するため、関係法令を所管する警察庁に加えて、業界内で専門知を有する（公財）日本美術刀剣保存協会、（公財）日本刀文化振興協会、（一社）日本甲冑武具研究保存会に監修を依頼し、万全を期した。

受験資格は、入組期間が五年以上の組合員もしくは賛助会員で、古物商許可証もしくは美術品商許可証取得後五年以上の経験者としたが、将来を見据えて、資格制限なしの公開模擬試験を実施。機関紙『刀剣界』でも資格内容を逐次広報するとともに、紙上模擬試験も掲載して精力的に普及に努め、令和元年四月、第一回の認定試験を実施。続いて同年六月に第二回、翌年八月（コロナ禍で順延）第三回と続き、組合が認定する総勢五十名の刀剣評価鑑定士が誕生した。

本資格は、日々の営業活動でのPR活用はもとより、今後は日本刀を普及・啓発する伝道師としての活躍も国内外で大いに期待されるところである。

★最後に

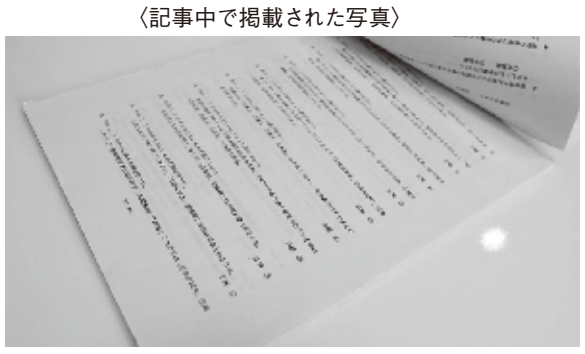
武官は勇猛、文官は弱腰とも見られがちだが、国も組織も一部の階層だけでは維持・存続できない。組合運営も、役員・事務局が個々の組合員の商売には直接関与できなくとも、同じ業界に属する以上、共通の利益はあるはずで、それらを日々発掘していくことは重要な使命と考えている。

当業界においては、何をおいても刀剣の認知度（市場価値）ならびに理解度（文化価値）の向上がそれである。一般にはまだまだ「日本刀は危険物」等の見方も残っており、組合の果たす役割は依然として大きい。

さらに、近年は〝刀剣女子〟と呼ばれる若者層に加えて海外からのインバウンド需要も増加していることから、安全・安心に刀剣を売買する市場を拡大していくことは喫緊の課題であり、正確な知識と幅広い見識を持った刀剣評価鑑定士の存在意義はますます大きくなると確信している。

本資格の普及を通じ、組合員ひいては世界に誇る刀剣文化のさらなる飛躍と発展に努めていきたい。

〈記事中で掲載された写真〉


試験問題

試験会場の様子

組合HP

全国刀剣商業協同組合
住所：東京都新宿区大久保2丁目18番10号
新宿スカイプラザ1302号
TEL：03-3205-0601
URL：https://www.zentosho.com/
理事長：深海 信彦

■「インボイス制度」導入を前に
番号取得の申し込み期限は今年三月

令和五年十月一日から、消費税の仕入税額控除の方式として、適格請求書等保存方式が開始されます。売上税額から仕入税額を差し引いた差額を納税するのが消費税申告になることは言うまでもありませんが、それにはインボイス番号を取得した課税事業者が交付する適格請求書等の保存が必要となります。

新しい制度ゆえ、最近の新聞報道では各要望による変化も予想されますが、消費税申告をしている方は番号取得が必須なので、早めの対応が求められています。

交換会市場では、ハガミに番号記載を予定しているところも多いようです。また、研磨や修理の際、今まで通りの控除には支払い先の番号が必要になるでしょう。

古物商特例もあり、個別案件には顧問税理士への相談や国税庁ホームページでの事前確認と準備を心がけましょう。（伊波賢一）

新刊紹介

国宝の刀剣100口、甲冑19領を収載する超豪華美術書

『名刀甲冑武具大鑑』小川盛弘 著

武器・武具に託された知られざる美の系譜をたどり、精神文化を色濃く反映したサムライアートという文脈を背景に、厳選された名品を網羅。メトロポリタン美術館やボストン美術館等の知られざる名品も収載した永久保存版！　3月10日NHK出版から発売。

■**体裁**：B4判上製368ページ（オールカラー）、別冊解説編96ページ

■**付録**：257×1050㎜のカラーポスター2枚

■**価格**：60,000円＋税（7月末日まで特別価格：本体54,000円＋税）、一下別

■**申し込み**：『刀剣界』で見た」と大阪刀剣会吉井（☎06―6631―2210）まで

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.
㈱ 日本刀剣
伊波賢一 Ken-ichi Inami
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

大阪刀剣会
吉井唯夫
美術刀剣、小道具、武具類の売買、加工及び御相談承ります
大阪市中央区日本橋二―七―一
TEL ○六―六六三一―二二一〇
FAX ○六―六六四四―五四六四

刀剣・小道具・甲冑武具
目白 飯田高遠堂
代表取締役 飯田慶雄
〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615
http://www.iidakoendo.com

アオバ企画㈱
高橋一
〒130-0012
墨田区大平四―一九―二―一三〇八
TEL ○三―三六二二―二二三一
FAX ○三―三六二二―二二五一
メール aobakk@pj8.so-net.ne.jp

歴史再発見
「越中島刀」はいかにして救済されたか

■進駐軍の刀剣顧問・服部栄治

終戦直後の昭和二十年十一月、在野から文部省社会教育局文化課長に抜擢され、翌月には初代の芸術課長に転任、後に文化庁の初代長官、国際交流基金の初代理事長を務めた作家・今日出海（こんひでみ）の『吉田茂』に、刀剣に関して気になる記述がある。第一次吉田内閣（二十一年五月からの約一年間）の下、今が芸術課長時代のことである。

「…面会人、陳情者が二六時中訪ねて来る。進駐軍の命に依り、刀剣は召し上げられたが、家の刀は家宝で、昔天皇から拝領した黄金造りの刀剣だが、それを持ち去られては先祖に申訳がないと、尚（しょう）侯爵（元琉球王家）がやって来たかと思うと、細川護立侯も同じく、四、五十本の名刀を持ち去られたと、私の部屋まで尋（ママ）ねて来られた。アメリカ兵の目には名刀も昭和刀も区別がない。海へでも捨てられては一大事だ。私はＧＨＱへのこのこと交渉に行き、許可証を持って、ジープに乗り、芝浦のバラックへ刀剣探しに出かけた。許可証は政府に返還するので、個人には渡せぬと、自由な国にも妙に官僚的な奴がいて、海風の吹きつける芝浦でイチャモンをつけられた。」（原文のまま。以下同）

服部栄治氏

これ以上の詳細は不明で、芝浦に接収刀剣の保管施設があったという情報も、初耳であった。

ところで『特報刀剣美術』（二十三年五月十五日、財団法人日本美術刀剣保存協会発行）に研師の吉川恒次郎が「嬉しかった話」と題し、一文を載せている。そこに「昨年五月、進駐軍から刀が数万本返還され、その中美術的価値のある品は所持者に返すことになり、私も審査に参りました。その時警視庁の方々特に福島警部さんが埃りだらけになった刀を汗を流し流し取扱って居られ…」とある。

また同号では不岐山人の名で書かれた「誰も知らない荒木係長の涙」の中に「（接収から）一年近くたって、越中島の米軍部隊から返されてきた」とあり、江東区越中島に駐留していた米軍から、多くの接収刀剣が返還されたことが推測される。

さらに鞘師で鑑定家の小松邦芳が「一昨年十一月より美術刀剣の審査を命ぜられ、東京、千葉、茨城の各地を刀剣調べをして歩き、又昨年五月より赤羽補給所にて約五十万本を先輩、同志とともに調べて…」とあって、二十一年十月からわが国に任された刀剣審査や赤羽刀とも異なる一件であったことが確信される。しかも、赤羽刀の約五千振をはるかに超える刀剣が返還されたというのである。

これらを引き合わせると、前書の芝浦は、おそらく越中島の勘違いである。接収された細川家の名刀を求めて、今課長らがカマボコ兵舎の建ち並ぶ同地の東京高等商船学校（現在の東京海洋大学）を訪れ、許可証を示したものの、返還は日本国に対してであって個人にではない、と引き渡しは断られた模様である。これらの刀剣は二十二年五月になって警視庁に移送され、審査を経て元の所有者に返却されたのであろう。

その後しばらくして、入手した外交文書の中に「越中島刀」そのものを発見することができた。

「二一、三、三〇内務省横尾報告　警視庁管下に於て回収せる刀剣の其の後の状況」と題するものを、以下にそのまま引用する（原文はカタカナ交じり）。

一、警視庁に於て回収し第八軍に於て保管中の刀剣は三月中旬より第八軍係官「ゲッツ」及び其の同行せる日本人鑑定人服部英（マ）次（マ）（神田区小川町一ノ一）に依り鑑定を為されたり（警視庁白石保安課長立会へり）

二、右鑑定の結果、刀剣（約一万本）は
第一級（国宝、重要美術品）
一、七七七本
第二級（右に準ずるもの）
六、九二〇本
第三級（美術品と認め難きもの其他連合軍に引渡すべきもの）
約一、三〇〇本
に分類せられ、第三級（主として軍装刀）を第八軍に引き渡せり

三、「ゲッツ」は一級二級余りに多しとて再鑑定を要すとの意向の如し

四、服部は従来より第八軍憲兵司令官「カドウエル」の刀剣に関する顧問役を務め居るものにして「ゲッツ」は日本政府に於ける再鑑定実施の場合に於ても之を参加せしめたき旨申入れ来れり

■国宝・重美もあった「越中島刀」

この文書によって、服部栄治が第八軍憲兵司令官キャドウェル大佐の刀剣に関する顧問役として回収の審査に関わり、日本刀の救済に貢献した事実が明らかとなった。

服部には『刀泉』第八号（二十二年九月）に「C・V・キャドウェル大佐を語る」の寄稿があり、そこに「…某連絡所から話があり、噂に聞く良刀を適別さしてそれを没収するのであろう。そんな役であれば先輩を差置いて自分がやっても文句がなかろうと、実は高を括って現場に臨み…」とあるところからも、裏付けられる。

なお、前出の文書には欄外に手書きで追記があり、「四月二日（火）九時『スタウト』、本間氏第八軍保管場所を視察する由。終連よりも同行可なるべし」とある。スタウトはＣＩＥ（民間情報教育局）に所属する文化財の専門家で、映画「ミケランジェロ・プロジェクト」（原作は『ナチ略奪美術品を救え 特殊部隊「モニュメンツ・メン」の戦争』）の主人公モデルともなったジョージ・Ｌ・スタウト、本文書報告者の横尾は、『刀剣鑑定手帖』で「内務事務官として寝食を忘れての尽力」と絶賛されている横尾勇次、警視庁保安課長は白石又一である。文部省の本間順治の名も見える。

服部栄治は明治三十六年、北海道根室生まれ。昭和六年、刀剣商服部善次郎の長女冨美の婿養子となり刀剣商に。戦前は軍の要請により静岡県三島や神奈川県鎌倉天照山で鍛刀所を運営した。三十二年から『刀剣情報』を発行。後年、栄一を名乗る。三十六年二月没。

ＧＨＱ／ＳＣＡＰ（連合国最高司令官総司令部）からの覚書により、回収が始まる二十年十月の時点で、民間人所有の刀剣で美術の対象たるものについては日本政府側において審査の上、所持を許可されることになっていたにもかかわらず、東京都の場合は連合国軍側にて再審査の要ありとし、警視庁に命じて国宝、重要美術品を含むすべての個人所有の刀剣を再び回収させていた。約一万本が騎兵第七旅団に引き渡されたのは翌年二月上旬のことであったという。

これらの返還に先鞭をつけたのが服部だったのである。

服部が鑑定した結果、美術品であって所有者に返還すべきとする一級品・二級品の数があまりに多いから再鑑定を要すと、第八軍憲兵司令官代理ゲッツ中佐は注文をつけているが、三月末の時点で日本政府による再鑑定は決定事項であり、そこに審査員として服部を加えよとも指示している。ゲッツからの信頼も厚い。

武器回収に関する公式の記録によると、東京都の場合、二十年十月十日から二十一年八月三十一日の間に、連合国軍に引き渡した刀剣二三八八七本、保有許可刀剣一〇二八二本で、保有許可率は三〇・一％である。東京都域の接収刀剣類の主たる集積場であったと思われる越中島の約一万本が、右に含まれることは明らかで、しかも、保有許可刀剣の大半を越中島刀が占めるとみられる。

刀狩りの嵐が吹きすさぶ二十一年早々の時点で、いったん接収された刀剣類が大量に救済されたという事実は驚嘆に値する。旧国宝の名物本庄正宗などの名刀が行方を絶ったことは惜しまれるが、東京都域で個人が所蔵していた国宝や重美、靖国神社遊就館に寄託されていた刀剣や細川家蔵刀などの多くが、こうして救済されていたのである。（土子民夫）

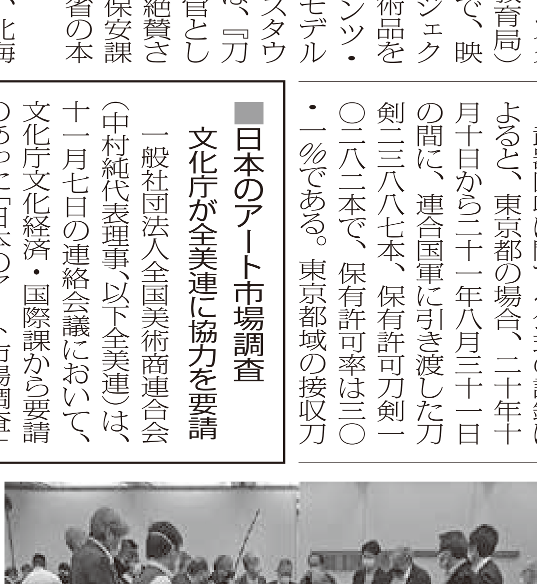
■日本のアート市場調査
文化庁が全美連に協力を要請

一般社団法人全国美術商連合会（中村純代表理事、以下全美連）は、十一月七日の連絡会議において、文化庁文化経済・国際課から要請のあった「日本のアート市場調査」への協力を決議しました。

全美連は東京・大阪・京都・名古屋・金沢の五都美術商協同組合をはじめ、洋画・版画・浮世絵・現代美術、そして刀剣などの各協同組合の組合員から成っており、業界の維持発展と日本の文化芸術の振興に寄与すべく、事務局を東京美術倶楽部内に設け、活動しています。

国際的なアート市場調査が世界基準で比較される中、日本の調査方法は十分に評価されずにいます。この調査は、内外での機会逸失を避けるため、国際基準で可視化し、正しく評価されるとともに、その機会を掴むことを目指しています。

各団体の名簿を基に組合員へ案内が届いていると思います。既に回答された方もおられるでしょうが、無記名が可能でもあり、ご協力をお願いします。（伊波賢一）


令和４年12月17日、去る５月に続いて本年２回目の組合特別交換会を東京美術倶楽部において開催した。参加者は66名、出来高は67,047,500円。

NEWS & TOPICS

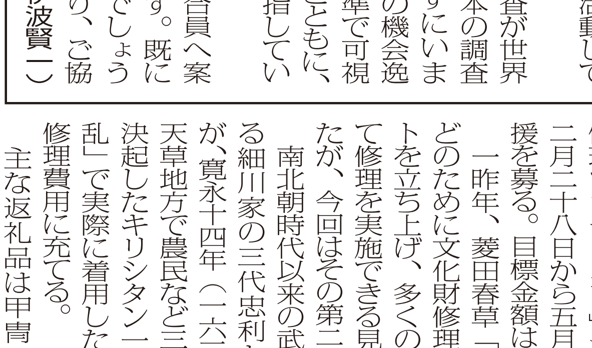
甲冑修理にクラウドファンディング開始

公益財団法人永青文庫（細川護熙理事長）は、クラウドファンディングサービスＲＥＡＤＹＦＯＲを利用して「史上最大のキリシタン一揆・島原の乱出陣の鎧／文化財修理プロジェクト」を実施する。二月二十八日から五月八日まで支援を募る。目標金額は一千万円。

一昨年、菱田春草「黒き猫」などのために文化財修理プロジェクトを立ち上げ、多くの支援によって修理を実施できる見通しとなったが、今回はその第二弾。

南北朝時代以来の武将の家である細川家の三代忠利と四代光尚が、寛永十四年（一六三七）、島原・天草地方で農民など三万七千人が決起したキリシタン一揆「島原の乱」で実際に着用した甲冑二領の修理費用に充てる。

主な返礼品は甲冑・刀剣ピンバッチセットや道明製啄木糸甲冑組紐マルチストラップなど。詳しい内容と申し込みは左記まで。
https://readyfor.jp/projects/eiseibunko_02



令和5年1月15日発行　刀　剣　界　第65号

イベント・リポート

日本刀文化振興協会「日本刀の匠展」
明治天皇ゆかりの明治神宮で初の刀剣展

海外からの来賓を交えた記念の撮影

公益財団法人日本刀文化振興協会（吉原国家理事長）主催、文化庁・観光庁後援「明治天皇一一〇年祭並びに明治天皇御生誕一七〇年記念【日本刀の匠展】」が、去る十月二十九日から十一月二十日まで、明治神宮宝物殿において開催されました。

期間中の十一月三日には、宝物殿正面にて記念式典と奉納鍛錬が行われました。

今回の展示は第十二回「新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」受賞作品を中心としたもので、会場には現代作家による刀剣をはじめ、刀装具・研磨・刀身彫刻などの作品が一堂に並びました。

明治神宮宝物殿は、竣工から百年以上経つ国の重要文化財で、明治神宮の厳かな雰囲気と相まって趣のある展示会となりました。

明治天皇の御生誕日であるこの日の奉納鍛錬では、初めに月山貞利刀匠による初打ちの儀が行われ、その後、奉納鍛錬として実演が執り行われました。

めったに見る機会のない神聖な鍛錬の様子を、関係者や居合わせた観客は息をのんで、真剣な面持ちで見つめていました。

この日は、駐日ポーランド共和国大使をはじめ、海外からの来賓も訪れるなど、今や世界に認知された「日本刀文化」をあらためて実感する一日でした。

合わせて二十一日間の展示は、連日秋の好天にも恵まれ盛況のうちに終わり、三千六百名を超える多くの来館者を数えたとのこと。

会場でも外国からのお客さまが多く見られ、総入場者数の二十%を占めたとか。ここでも日本刀に対する海外からの注目の高さがうかがえました。

期間中は各刀職者が交代で案内役となり、来場客の質問に丁寧に答えるなど、伝統技術の継承者たちによる展示であることを生かした試みも行われていました。刀職者からの説明を生で聞ける貴重な機会とあって、これも大変好評だったそうです。

令和四年は明治天皇の崩御から百十年、また御生誕百七十年を迎える節目の年に当たります。今回のような日本刀に関する展示や、鍛錬行事が明治神宮で開催されるのは初めてとのことで、明治天皇がこよなく愛された日本刀の行事を、このような特別な年に、ゆかりの施設で開催されたことは、刀剣界にとっても意義深いことであったと思います。（生野直輝）

重要文化財が会場の展観風景

日本美術刀剣保存協会「現代刀職展」表彰式
各部門の精鋭たちに栄誉を授賞

「現代刀職展」表彰式で挨拶する酒井会長

去る十一月二十九日、公益財団法人日本美術刀剣保存協会（酒井忠久会長、以下「日刀保」）主催の令和四年度「現代刀職展」表彰式が、第一ホテル両国において開催されました。

式典には、来賓として高村正彦元外務大臣（日刀保名誉顧問）、逢沢一郎衆議院議員（「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」幹事長）、山田宏参議院議員（同事務局長）、本田顕子参議院議員（同）、齋藤憲一郎文化庁文化財第一課長、深海信彦全国刀剣商業協同組合理事長が出席されました。

表彰式は午後一時半から執り行われ、初めに酒井会長から挨拶がありました。次に来賓の逢沢議員、山田議員、齋藤課長が祝辞を述べられ、続いて主催者の指名で本田議員と深海理事長がスピーチをされました。

表彰に入ると、まず作刀の太刀・刀・脇指・薙刀・槍の部で高松宮記念賞を受賞した森國利文さんに賞状と賞杯が授与されました。続いて、薫山賞を木村光宏さん、寒山賞を髙橋祐哉さん、日刀保会長賞を北川哲士さんがそれぞれ授与されました。

同じく作刀の短刀・剣の部では、髙橋祐哉さんが薫山賞を、安藤祐介さんが寒山賞を、彫金の部では、柳川清次さんが薫山賞を受賞しました。

研磨鎬造の部では、文部科学大臣賞に各務弦太さん、木屋賞に是澤光昌さん、竹屋賞に真津仁彰さん、千葉賞に松村壮太郎さん、薫山賞に森井鐵太郎さん、寒山賞に小川和比古さん、日刀保会長賞に諸富剛さんが選ばれ、また同平造の部では、寒山賞を玉置城二さん、日刀保会長賞を阿部義貞さんが、それぞれ受賞しました。

柄前の部では日刀保会長賞を久保謙太郎さんが、白銀の部では日刀保会長賞を三島幹則さんが受賞しました。

受賞者の方々は名前を呼ばれると緊張した面持ちで登壇し、酒井会長より賞状と賞杯が授与されていました。また、受賞者には分野ごとに玉鋼などの副賞が贈られました。

その後、審査員から全体の講評があり、作刀の部では、例年は刀匠の審査員が講評を述べるところ、今回は学識経験者として、ふくやま美術館館長の原田一敏審査員と、塚本美術館館長の三角正人審査員（原田審査員が代読）の両人から講評がありました。

三角審査員からは、今年は「令和の名刀・名工展」も開催され、やりくりが大変な方もいる中で昨年度並みの出品数があったこと、年々技術が向上し上下の差があまりなくなってきたこと、また審査で最もウエートが高い刃文、刀姿や茎仕立てなど、審査のポイントについても詳しく指摘があり、その他、短刀のみ出品された方は太刀・刀にもぜひ挑戦してほしいこと、無鑑査の方は正宗賞を目指して覇気ある作品を見せてほしいことなどの講評がありました。

研磨の部については、臼木良彦審査員から、昨年よりも多くの出品があり大変好ましいこと、近年技術の向上が顕著であること、特に今年の特賞と優秀賞の上位は甲乙つけがたく優れたものであったなどの講評がありました。

また、下地の悪いものが数点あったほか、ヒケの入っているものも多かったこと、などの注意がありました。そのほか、刃取りは深めに取ったものが多くあり、谷はやや深めでも良いが焼頭は深く取りすぎないように、などの技術的なポイントが指摘されていました。

なお、今回からは特賞を受賞した作品については、個別に講評を『刀剣美術』に掲載するとのことです。

受賞者を代表して高松宮記念賞を受賞した森國利文さんが答辞を述べられ、式は一時間半ほどで滞りなく終了となりました。

閉会後は記念撮影が行われ、受賞者の皆さんの表情にも喜びが満ち、会場は祝賀ムードに包まれていました。（生野直輝）

NEWS & TOPICS
東川町が『近藤誠一全集Ⅱ』を全国の高校に寄贈

〝写真文化首都「写真の町」〟をキャッチフレーズにする北海道東川町は、世界中の人々に開かれた、笑顔のあふれるまちづくりに取り組んでいる。

この町の文化芸術振興プロジェクト参与でもあり、元文化庁長官、近藤文化・外交研究所代表の近藤誠一氏が、「日本人」を大きなテーマにさまざまな著名人をインタビューしてまとめた『近藤誠一全集Ⅱ』をこのほど町が発行、全国の高校に寄贈している。

かまくら春秋社が制作・発売、定価は税込み三八五〇円

本書は、近藤氏の視点を通して、国内外の文化芸術の振興を図ることを目的とし、広く文化芸術を後世に伝えていくものとし、受入団体からの企業版ふるさと納税等の財源を活用して刊行した。

今回の内容は、現代日本の伝統工芸を代表する方々と、日本人が古来より大切にしてきた自然と一体となった日本人の技と心に迫るもの。高校生のみならず、ぜひ広く読んでほしい一書。宮入小左衛門行平刀匠のほか、次の作家との対談で構成されている。

室瀬和美（漆芸家）・藤沼昇（竹工芸作家）・樂吉左衛門（陶芸家）・佐々木苑子（染織家）・今泉今右衛門（陶芸家）・大角幸枝（金工）・森口邦彦（染織家）・須田賢司（木工芸家）・中川衛（彫金作家）・江里康慧（仏師）

■刀剣博物館
〒130-0015 東京都墨田区横網１-12-9
☎03-6284-1000　https://www.touken.or.jp/museum/

第68回重要刀剣等新指定展

（公財）日本美術刀剣保存協会の審査事業は、日本刀の調査・保存を目的に昭和23年より行われています。現在では真偽鑑定等を主目的とする基本の保存審査を第一義とし、より美術性の高い格付けを重視した審査として特別保存、さらには重要・特別重要といった段階を設け、審査を行っています。その中において重要審査は、作品の正真はもちろん、資料性や健全性も兼備した完成度の高い美術工芸品として国認定の重要美術品に準ずる優作であることの指定であり、毎年欠かすことなく審査は継続され、今日に至っています。日本刀の高い品格と真摯なるくろがねの美を、そして刀装・刀装具に表れた工芸美の粋を、心ゆくまでご鑑賞ください。
会期：1月7日(土)～2月26日(日)

■柏原美術館
〒741-0081 山口県岩国市横山2-10-27
☎0827-41-0506　https://www.kashiwabara-museum.jp/

特別展示「拵の匠 ―時代を彩った刀装具」

黒漆合口腰刀拵―浅く立鼓をとった柄形に黒塗鮫を着せ、軍配図の出目貫は赤銅地容彫金色絵で、古金工の作と鑑せられる。鞘は黒漆無文であり、縁頭、鯉口、栗形、返り角、裏瓦などの角所は黒漆ですべて無文である。小柄は欠いているが桃山時代の合口腰刀の様式をよく伝える出来で、侘び寂びに通じる渋い味わいのある腰刀である。
会期：令和4年12月26日(月)～令和5年3月12日(日)

令和5年1月15日発行　刀剣界　第65号

古都の折々 10

新年の道標

石井 理子
筆者は奈良県在住

皆さま、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年の新年号に剣道を始めたことを書いたのだが、なんと現在も継続中である。それどころか、私が始めたことでハードルが下がったのか、新たに始めた保護者が三人も増えた。そんなわけで、目下、四人の大人が稽古をしている。大人の部活動のようで、すこぶる楽しい。

その中の一人が「大人が自分の目標を持つとか、必死になるとかって、実はなかなか無いし難しいよね」と言った。

本当にそうだ。その通りだ。こんなことを言われると、心が震えるようだった。

そんな四人の大人は、二月の昇段審査で初段合格を目指している。

審査項目に、「日本剣道形」がある。太刀七本、小太刀三本の計十本であり、初段は太刀の三本目までだ。剣道で必要なことがすべて詰まっているようなもので、打ち太刀・仕太刀の二人で決められた形を行う。

紙面の都合上、ごくごく簡単に言ってしまったが、お許しいただきたい。

その日本剣道形が、私は本当に苦手なのだ。なかなか動きが覚えられず、呑み込めず、所作も固く無様なのだ。

なのに、私以外の三人はどんどん進んで、最終の小太刀の三本目まで行ってしまった。最早、三人の背中は見えない。

こうなると、自分が情けなく、悔しくて悔しくて泣けてきた。いや、本気で泣いた。

それでも、先生方に根気よく指導を頂き、何度もやり直しに付き合ってくれた稽古仲間のおかげで、ようやく小太刀の三本目までたどり着いた。

昨年の後半は、この日本剣道形に終始した。そして、今年は初段に合格すること、形をもっと流れるようにできることが目標だ。

そう、私には目標がある。

大人だけど、恥ずかしげもなく必死だ。そんな必死の時間、目標があるのは幸せなんだろう。

みっともなくとも何だろうと、私は今年も駆け続ける。

資料紹介

『よしみつ手帖3』と『よしみつmini図鑑』

昭和の時代、『日本刀大鑑』『助廣大鑑』『真改大鑑』『帛徹大鑒』『肥前刀大鑑』など名品を対象とした大型本が多く上梓され、実物大の写真、押形と諸先生の解説は研究と鑑賞眼力向上に大いに貢献したところです。実物は無理でも本なら手が届くこともあり、拙宅にも何冊かの大型本があって、住居を占拠していました。

惜しくも品切れに…

最近はデジタル画像の発達や年相応の筋力低下もあって大型本は埃をかぶり、A4前後の展示会図録とパソコン上での刀剣鑑賞が主になり、大型本は刀屋さんに引き取ってもらいました。

そんな折、刀剣博物館の売店で目にしたのが、今回ご紹介する資料です。手帖は『藤四郎大鑑』とでも言いたいのですが、大きさは『刀剣美術』より一回り小さいA5判、一四八×二〇〇㎜、厚さ八㎜で、気楽に持ち運びできます。

内容は公開情報や展示会情報に基づくもので、御物・国宝・重文・重美・特重・重要・その他についてイラストとともに号・伝来・所蔵元・諸元・特記が整理されています。また同一縮尺で太刀・短刀・剣を並べ、刃長・茎長・身幅の相対比較ができます。茎と銘のイラストもあり、気楽に吉光が楽しめ、学べる好書と思います。

ちなみに御物二、国宝四、重文九、重美十二、特重七、重要十三、その他八が掲載されています。

図鑑の方は同じA5で厚さは二㎜、イラストと諸元に若干の説明のみです。

著者・発行者の詳細は不明ですが、藤四郎をこよなく愛する方とお見受けしました。なお、二書とも令和三、四年ごろに刀剣博物館と致道博物館で委託販売されていましたが、今は品切れ状態で再販予定はないようです。

（刀剣愛好家 鈴木光寿）

NEWS & TOPICS

甲冑師・西岡文夫氏が選定保存技術保持者に認定

昨年七月二十二日、文化審議会文化財分科会の審議・議決を経て選定保存技術の選定および保持者の認定等について文部科学大臣に答申があり、四十年以上にわたって甲冑師として活躍される西岡文夫氏（一般社団法人日本甲冑武具研究保存会副会長）が、甲冑修理に関する選定保存技術保持者に認定されました。

甲冑師としてこれまでに認定を受けた方は、牧田三郎氏・小澤正実氏、そして今回の西岡氏と三名になります。

西岡氏は昭和二十八年生まれ。森田朝二郎氏に師事して甲冑制作・修理を学び、現在三名の弟子に技術を継承されています。

同氏の甲冑修理は、平安・鎌倉期の大鎧から当世具足など中近世以降に至る幅広い時代の甲冑について、安定した技術と確かな見識の下に適切な保存処置を施すことで高い評価を得ています。日本全国の博物館、社寺などの甲冑を数々修理された実績を有し、現在も横浜で取り組んでおられます。

甲冑の話題――⑰

（一社）日本甲冑武具研究保存会

往時の人たちは今の僕たちよりも視力はいいでしょうし、〝鎧武者〟なんて明らかに非日常な格好なので、はっきり認識しやすいでしょう。また、甲冑は初めに着る段階では必ずきれいな状態にしてあると思うので、単色系統の色合いの甲冑でも周囲から浮いて映ったと思います。実際のところ、周囲の環境に埋もれるような色合いの甲冑は、茶色系の稲葉を用いたものだけなのかもしれません。

ここでよく外国の方が制作する検証動画のように、そういった環境にそういった甲冑を持っていって確認すればいいのでしょうが、僕にはちょっとそういった能力はありません。やらない理由を一つだけ言い訳させてもらうなら、仮に僕がそういった検証をしたところで、果たして当時の人たちと同じように見える（＝感じる）のかどうかはかなり怪しいところです。そもそも当時の人たちと現代の私たちとでは、価値観や美意識など多くの部分で違うと思うからです。

少なくとも社会的背景は明らかに違いますよね。こういうことを言うと嫌な顔をする方もいますが、個人的には大陸の某国の人たちの方が現代の私たちよりもはるかに当時の日本人に近いのではないかと思うことがあります。

灰色のコンクリートに囲まれ、インフラの整備された環境の中で暮らしている私たちが自然の草花を美しく感じる感覚と、自然環境と隣り合わせの状況で生活している当時の人たちが草花を愛でる感性とは異質なもののように思います。連想ゲームをした時に、同じものを見ていても外国人と日本人とでは回答が違うのと同じ感じです。あえて己の盆暗さを曝すような言い方をするなら、仮に自分が人里離れた土地で自給自足の生活をしても、彼らのように草花を愛でる感覚を持てる自信はありません。

現代の日本人と根本的に全く違う当時の日本人が、甲冑に限らず当時の服飾や建物の装飾、絵画作品など諸々の色彩をどのように見、どのような印象を持って捉えていたのか？　何故その色彩を良いと思い、受け入れ、選択したのか？　それが理解できたら、今よりちょっぴり甲冑の見え方が違ってくるような気がしています。

（一般社団法人日本甲冑武具研究保存会理事　佐々木亮）

訃報

甲冑師・三浦公法 氏

甲冑師の三浦公法（みうら・ひろみち）氏が昨年七月二十六日、八十四歳で亡くなられました。三浦氏は二十八歳で甲冑師を志し、以来五十年以上日本甲冑の復元模造制作・修復に専念され、長年暮らした板橋区の登録無形文化財技術保持者にも認定されました。日吉神社蔵「赤糸威鎧」や櫛引八幡宮蔵「白糸威褄取鎧」、徳川美術館蔵「銀箔押長烏帽子形兜」など、有名な本歌甲冑の模造制作を多数残され、中世・近世を問わずさまざまな作品に挑まれました。

制作・修復のみならず、海外における日本甲冑文化啓蒙にも大変大きな功績があり、昭和六十年と六十一年にニューヨーク・サンフランシスコで開催された「日本の変り兜展」、平成元年にベルギーで開催された「ユーロパリア'89日本祭り」における「大名展」での展示作業、会場における制作実演などに携わるなど、多岐にわたって活躍されました。

精緻かつ入念に作られた作品とその素晴らしい業績にいかなる努力と苦難があったか、畏敬の念を感じずにはいられません。謹んでご冥福をお祈りいたします。

NEWS & TOPICS

恒例の「こんぴらさんの刀」が話題に

「こんぴらさん」の名で親しまれる金刀比羅宮（香川県多度郡琴平町）は、古くから海上交通の守り神として敬われ、武人の尊崇を集めた所。江戸時代には「金刀比羅参り」が盛んに行われ、絵画や刀剣の奉納もしばしば見られた。

高松市の香南歴史民俗郷土館では毎年、日本美術刀剣保存協会香川県支部の協力を得て刀剣展を開催しているが、昨年暮れにも県内の収集家らが所有する各時代の刀をはじめ、金刀比羅宮の太刀など計二十振をを紹介する「日本刀展―こんぴらさんの刀―」を催した。

このうち、金刀比羅宮が所蔵するのは、幕末～大正期に活躍した宮本包則の作で、伊勢神宮の式年遷宮に際して製作した宝剣と同時に作られたもの。拵と合わせて希少な作品に、注目が集まっていた。

令和5年1月15日発行　刀　剣　界　第65号

古老に聴く　第八回

早世した方と長生きする方と…

綱取 譲一

本紙第六十三号の「大正生まれの兜愛好家と昭和生まれの仲間たち」で少し触れた昭和生まれの一人、望月隆司氏が平成二年に亡くなった時の話から。

昨年、選定保存技術保持者に認定された西岡文夫氏は、今活躍中のサッカー日本代表の森保一監督を見ると望月氏を思い出すと言う。一方、俺は代表からは漏れたが、トルコで活躍するMF中島翔哉選手を見ると望月氏を思い出す。俺のオフクロは、望月氏の前髪を横になでつけるしぐさが好きだと生前語っていた。

故 望月隆司氏

氏の訃報が届いた翌日、東銀座にあった俺の職場の開店時、異変が起きる。本棚にあった甲冑の書籍が床に散らばっていたのだ。俺は望月氏が別れのあいさつに来たのだ、と理解した。

その週のうちに来店し、この話を聞いてくれたのは今回語る竹村雅夫氏。この竹村氏も、同じ日に超常現象を体験していた。風呂に浸かっていると照明が消え、浴槽の端から端へと光が走っていったという。

氏は、望月氏からの未完の論文「雪ノ下鍛冶」の後を頼む、とのメッセージと理解したと言う。

一昨年、刀剣の競売会場で雪ノ下久家在銘の五枚胴を見た時も、調べるにつれこの論文までさかのぼることになり、いまだ自分の中では金字塔だ。また、竹村氏の涙を見たのは後にも先にもこの時だけ、世の中広しといえど、俺だけかもしれない。

というのも、氏は日本甲冑武具研究保存会の審査委員長を務め、甲冑の世界では大変高名な方となっている一方で、その我の強さから敵が多いことを容易に想像できる。

今回の金言は、甲冑研究家の笹間良彦氏が晩年に俺に悲しそうにつぶやいた一言。「僕もF君（想像に任せる）もいがみ合ってきたけれど、お互い顔を見ればすっかり年寄りじゃないか、何をやってきたんだか、寂しいよ」。俺はこの言葉を、昨年他界してしまった甲冑師の三浦公法氏と当時ギクシャクしていた竹村氏に伝え、「年取ってから寂しくなるよ」と付け加えてやったことがあった。すると「俺に付いてきたい奴と付き合っていくだけだ」と自身の人生論？で返されたことがあった。

そんな一方で、氏の雑談は意外に面白く、当店バイトと「新橋はし膳」のかき揚げの話で盛り上がっている。「フットボールのようにでかくて、よほど大きい鍋で揚げなきゃな」などと…。

当組合員、神田藤古堂の藤田雄介氏と天丼の研究を重ねているが、もはや遅し。この店は既にないらしい。

傑作は、マニュアル車しか乗ったことのない友人に自分のオートマ車を運転させた話。高速のスムーズな合流直前に、いきなり左足でブレーキを踏まれ慌てたそうだが、命があってよかったとしか言いようがない。

俺は断言する。竹村氏は長生きすると。これは憎まれっ子の理屈ではない。

思い出す最後の雑談は、またしても不思議な現象の話。竹村氏は子供のころ、無数の蛇たちがドラム缶くらいの山となり蠢き合っていたのを見たという。その地域では「蛇塚」と呼ばれ、これを見た者はすぐに死を迎えると言われていたらしい。しかし、氏はまだまだ元気だ。

頼む皆、そんなに憎まないでやってくれ。

■備前長船刀剣博物館

「鞘師　前田幸作の世界」

鞘には白鞘と呼ばれる木地のままのものと、塗りが施され柄糸が巻かれた拵とがあり、いずれも刀身を保護し、安全に持ち運ぶために必要不可欠なものです。

鞘や拵は、刀身の長さや形状に合わせて作られます。そのために別の刀身を収めることは難しく、このことに関連して「反りが合わない」「元の鞘に収まる」などの言葉も生まれました。

本展では、鞘の製作工程を実物資料で紹介するとともに、現代の鞘師を代表する故・前田幸作氏（1934-2021）を作品とともに取り上げます。

【前田幸作】昭和9年、兵庫県姫路市生まれ。初め花嫁道具や長持ちを製作する指物師として活動し、30歳のころ、鞘師に転じる。62年、日本美術刀剣保存協会の鞘部門で無鑑査に認定され、平成11年、伝統文化ポーラ賞を受賞。刀装技術の第一人者として、新作の拵製作をはじめ、国指定文化財や寺社に奉納された刀剣類の修復にも携わった。

会期：2月18日(土)～3月23日(日)

ブック・レビュー　BOOK REVIEW

元寇撃退の真因は〝神風〟ではなかった!?

『蒙古襲来』服部英雄 著　定価二六四〇円　山川出版社

蒙古襲来は、鎌倉時代の文永・弘安年間、空前絶後の大帝国を築いたフビライが、大軍を仕立て、鎌倉後期の日本に攻めてきた有名な事件である。

武士たちの一騎打ちは蒙古軍の集団戦法には全く通用せず、「てつはう」という新兵器に馬が驚いて、日本は大苦戦。しかし、突如起こった大暴風雨で蒙古軍は大打撃を被り、フビライの野望はついに果たされなかった……この説は、この分野を東大系の先生たちをはじめとする専門家が書いた概説書や一般向けの歴史書により再三再四説かれ、もはや鉄壁の定説となっている。

しかし、服部英雄氏によれば、この〝定説〟は権威主義と際限なき孫引きに守られてきた砂上の楼閣だという。服部氏は、白い巨塔の先生方が何ら疑うことなく採用した信頼性のない史料を徹底的に批判し、百年前の研究者の説を見直し、信頼性の高い史料、すなわち、蒙古襲来と同時代の貴族の日記や、元や高麗の史料を読み込み、そして竹崎季長の『蒙古襲来絵詞』を丁寧に読み解き、定説を突き崩すことに成功した。

精強な蒙古軍を退けることができたのは、偶々起こった暴風雨によるのではなく、またその暴風雨を招いた僧侶や神社の加持祈禱によるものでもなく、鎌倉武士たちの、文字通り、身体を張っての奮戦によるものだったのである。

服部氏の研究手法は、地名の歴史的調査・解明、沈没交易船の調査記録の読み取り、現地の人々への聴き取り、気象情報の解析など、多彩で、的確である。そして論の展開は明快で、文章のテンポは軽快である。まるで名探偵のなぞ解きに立ち会っているようである。読んで損のない一書であった。

しかし、服部氏の秀逸な論考は、これまで黙殺されてきたらしい。服部氏は超一流の歴史学者である。異端者などでは決してない。それでも、教科書にまで採用されている定説の力は大きく、異を唱える服部氏の説は不都合なので、学界から無視されてきたらしい。

服部氏がこの本を出版したのは、自説を風化させないためであった。そして出版された本書を、少なからぬ人々が読んだはずである。今後、蒙古襲来に関する歴史の教科書の記述は変わるのだろうか。あるいはもう変わっているのだろうか。それとも相変わらずなのか。いずれにせよ、服部氏は「本研究が抹殺されないために、著者は最善の手を尽くす」決意である。

さて、刀である。刀の学説にもさまざまな通説がある。先学が知恵を絞った説を、浅学の筆者が安易に否定する気は毛頭ない。が、定説の中には、その本の執筆者の思い付きで裏付けが一切ない、砂上の楼閣だったりすることが、実はあるのである。

「まずはすべての説を否定してみることです。そこから新たな視点や問題点が生まれてくるのです」。ヨハン・ホイジンガ『中世の秋』の名訳で知られる故・堀越孝一先生の、飄々たる口調と笑顔が脳裏に蘇る。

初心忘るべからず、である。

（小島つとむ）

■服部英雄（はっとり・ひでお）

一九四九年、名古屋生まれ。東京大学大学院修士課程修了。九州大学大学院比較社会文化研究院教授。名古屋城調査研究センター所長。著書に『景観にさぐる中世』『武士と荘園支配』『河原ノ者・非人・秀吉』（毎日出版文化賞受賞）など。「あるき／み／きく歴史学」を提唱。

NEWS & TOPICS

「刀剣議連」三議員が山鳥毛を視察

「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」の甘利明（共同世話人）・逢沢一郎（幹事長）・山田宏（事務局長）の三名の国会議員が去る九月二十三日、岡山県瀬戸内市の長船刀剣博物館を訪れ、開催中の夏季特別展「長船の系譜―七百年の栄枯盛衰」を視察、国宝 無銘一文字「山鳥毛」をはじめ展示されている備前の名刀を熱心に鑑賞された。

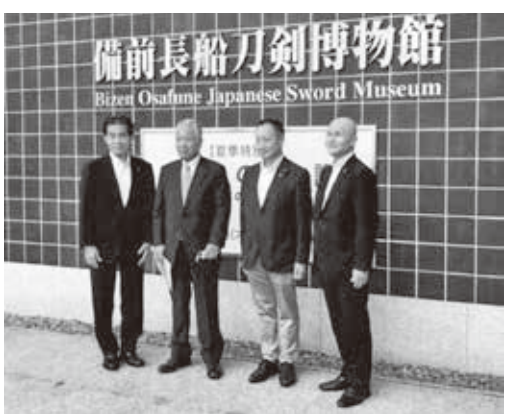
十一月二十八日、参議院議員会館で開催された同議連の総会でその詳細が報告された。

総会では併せて、刀剣・和鉄文化の保存振興に関する令和五年度の概算要求についても報告があった。これによると、刀剣関係団体等が行う研修およびたたら製鉄への支援、刀剣類の製作技術者等の人材育成に、前年を上回る総額二七二六万円を計上、満額の達成が申し合わされた。

総会終了後、名刀鑑賞会が開催された。

なお、議連総会には公益財団法人日本美術刀剣保存協会・公益財団法人日本刀文化振興協会・全日本刀匠会とともに当組合にも案内を頂き、深海理事長・清水専務理事・筆者の三名が出席した。

（土子民夫）



長船刀剣博物館を視察した（左から）逢沢・甘利・山田の３議員と案内役を務めた武久顕也瀬戸内市長

NEWS & TOPICS

G-SHOCK四十周年に日本刀モデルが登場

カシオ計算機㈱は、腕時計ブランド「G-SHOCK」の最上級ライン「MR-G」の新作として、日本刀の世界観を表現した「MRG-B2000GA」を十一月に発売した。価格は九十三万五千円。数量は世界限定五百本。

G-SHOCKは今年四十周年を迎えるが、その記念モデルの一つとして、伝統を受け継ぐ鍛刀界の名門「月山」とコラボレーション。メタルバンドの中駒には月山貞伸刀匠が一つ一つ化粧鑢を施すほか、「鍛」「錬」の文字が切られる。また、月山の最大の特徴である綾杉の模様を、ベゼルの素材や加工、仕上げで表現。独特の模様と色調を生み出すその表情に同じものはなく、一点物になる。

ケースは、純チタンを加熱処理した際に現れる結晶模様を施し、刃文の沸を表現。深層硬化処理とチタンカーバイト処理により、素材強度と耐摩耗性を高めている。

カラーは新色となるブルーグレーで、名刀の色合いとされる「青みを帯びた鉄色」を表現している。

G-SHOCKを買うか、刀を買うか…

組合こよみ（令和４年４～12月）

４月４日　銀座長州屋において『刀剣界』第63号編集委員会を開催(再校)。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・土子民夫氏
６日　服部副理事長と清水専務理事が刀剣評価査定のため静岡県磐田市に出張
７日　刀剣評価査定のため嶋田常務理事と生野理事が来所
７日　東京美術倶楽部において開催された全国美術商連合会理事会に伊波副理事長が出席
12日　参議院議員会館において開催された「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」総会に深海理事長・伊波副理事長・清水専務理事が出席
16日　東京美術倶楽部において第36期第１回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・生野理事・松本理事・冥賀理事・大西監事・冥賀監事・土子氏・（事務局）有山・濱﨑
16日　大西監事・冥賀監事が会計監査
28日　刀剣評価査定のため清水専務理事と嶋田常務理事が来所
５月12日　（公財）日本美術刀剣保存協会より「令和の名刀・名工展」（8月6日～）の後援依頼（承諾）
13日　刀剣評価査定のため清水専務理事と嶋田常務理事が来所
17日　東京美術倶楽部において第35回通常総会を開催。出席者63名、委任状67名、合計142名
17日　東京美術倶楽部において特別交換会を開催。参加73名、出来高42,613,500円
17日　東京美術倶楽部において第36期第２回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・佐藤理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・吉井理事・大西監事・冥賀監事
17日　東京美術倶楽部において『全刀商』編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・佐藤理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・吉井理事・大西監事・冥賀監事・土子氏
６月７日　ホテルニューオータニにおいて開催された信和会政経セミナーに服部副理事長と清水専務理事が出席
13日　刀剣評価査定のため服部副理事長と清水専務理事が来所
16日　東京美術倶楽部において第36期第３回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・大平理事・佐藤理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・吉井理事・冥賀監事・飯田相談役・（事務局）濱﨑
16日　東京美術倶楽部において『全刀商』編集委員会を開催(初校)。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・佐藤理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・吉井理事・土子氏
16日　（公財）日本刀文化振興協会より「日本刀の匠展」（10月29日～）の後援依頼（承諾）
22日　深海理事長・清水専務理事・嶋田常務理事が警察庁生活安全課を訪問
27日　東京美術倶楽部において開催されたインボイス説明会に事務局・濱﨑が出席
７月12日　東京美術倶楽部において第36期第４回理事会・大刀剣市実行委員会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・冥賀理事・持田理事・冥賀監事・飯田相談役
12日　東京美術倶楽部において『全刀商』編集委員会を開催(再校)。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・冥賀理事・持田理事・冥賀監事・飯田相談役・土子氏
22日　刀剣評価査定のため綱取常務理事と生野理事が横浜市に出張
25日～８月６日　藤代スタジオにおいて大刀剣市カタログ用の写真撮影
30日　新橋プラザビル1401号室において臨時理事会・大刀剣市実行委員会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・土子氏・（事務局）濱﨑
８月５日　第一ホテル両国で開催された「令和の名刀・名工展」表彰式に深海理事長が来賓として出席
８～９日　新橋プラザビルにおいてタケミアートが大刀剣市カタログ用の写真撮影
30日　深海理事長と土子氏が参議院議員会館に山田宏議員を訪問し、取材
９月６日　刀剣評価査定のため嶋田常務理事が来所
９日　嶋田常務理事と綱取常務理事が産経新聞社を訪問し、大刀剣市の後援を依頼
12日　東京美術倶楽部において第36期第６回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・佐藤理事・生野理事・松本理事・持田理事・吉井理事・大西監事・冥賀監事・（事務局）有山
９月16日　東京美術倶楽部において持ち回り理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・松本理事・持田理事・吉井理事
16日　東京美術倶楽部において『刀剣界』第64号編集委員会を開催(初校)。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・赤荻理事・生野理事・土子氏
26日　組合事務所において『大刀剣市カタログ』編集委員会を開催。出席者、服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・持田理事・土子氏
29日　東京プリンスホテルにおいて開催された「和田よしあき君を励ます会」に清水専務理事と嶋田常務理事が出席
30日　深海理事長が全国中小企業団体中央会機関誌の取材を受ける
10月５日　刀剣評価査定のため服部副理事長と嶋田常務理事が来所
７日　組合事務所において『大刀剣市カタログ』編集委員会を開催。出席者、服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・土子氏・（サンコーリンクス）猪狩氏
13日　清水専務理事・嶋田常務理事・土子氏がサンコーリンクスにて『大刀剣市カタログ』の出張校正
18日　東京美術倶楽部において第36期第７回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・赤荻理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・冥賀理事・持田理事・吉井理事・大西監事・冥賀監事・土子氏・（事務局）有山
19日　東京美術倶楽部において大刀剣市事前説明会を開催
11月３日　明治神宮宝物殿において開催された「日本刀の匠展」の奉納鍛錬に伊波副理事長が来賓として出席
16日　東京美術倶楽部において『刀剣界』第65号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・伊波副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・飯田相談役・土子氏
18～20日　東京美術倶楽部において第34回大刀剣市を開催
28日　参議院議員会館において開催された「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」総会に深海理事長・清水専務理事・土子氏が出席
29日　第一ホテル両国で開催された「現代刀職展」表彰式に深海理事長が来賓として出席
12月16日　東京美術倶楽部において『刀剣界』第65号編集委員会を開催（初校）。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・綱取常務理事・飯田理事・大平理事・生野理事・瀬下理事・持田理事・吉井理事・飯田相談役・土子氏
17日　東京美術倶楽部において特別交換会を開催。参加66名、出来高67,047,500円
23日　銀座長州屋において『刀剣界』第65号編集委員会を開催（再校）。出席者、深海理事長・服部副理事長・清水専務理事・生野理事・土子氏

「煌（きらめき）」刀工 宮入小左衛門行平展」
身を守り、心の拠り所として…

宮入小左衛門行平展の会場風景

去る十一月三十日より十二月五日まで、日本橋髙島屋にて「煌（きらめき）」刀工 宮入小左衛門行平展」が開催されました。会期中は多くの方々にご来場いただき、とても盛況となりました。

会場には最新作の刀・脇指・短刀・小刀が並び、とても好評でした。多くの方が目を留めていたのが彫りのある大小で、刀の表に不動明王、脇指の表に珠追い龍、そして裏はどちらも梵字で、不動真言の彫刻のある作品です。

刀身の出来に彫りがよく調和して、その美しさが多くの目を惹きつけていたこともありますが、それだけではない理由も感じました。社会情勢や環境が大きく変化する中で、災いを払い、持ち主を守る力や、心の拠り所となる力。刀剣の持つそのような力の、目に見える象徴として、古くから信仰につながる画題の刀身彫刻があったわけですが、まさに刀剣の持つそんな力が人々を本能的に惹きつけているのだと思います。

刀剣の持つ「持ち主を守る」という役割は、現代においても、いやむしろ現在のような時節であるからこそ、より一層必要とされているように感じます。

展覧会には一門の川﨑晶平・河内一平・上山輝平・宮入陽、そして私の作品も賛助出品として並びました。今回、私が出品した小烏造り短刀の行き先も決まったのですが、そのことでご縁がつながり広がっていくのを感じました。

江戸時代には刀剣の重要な役割として、名刀が多く贈答に使われていたわけですが、それも刀剣の持つ「ご縁をつなぐ」力によるところも多かったのだと実感するきっかけとなりました。

現代においてもそんな風にこの時代に合った役割を果たしていく日本刀を、これからも作り続けていきたいという思いが強まった次第です。

ご来場いただきました皆さま、どうもありがとうございました。

（根津秀平）

★右記展覧会図録『宮入小左衛門行平作品集』を入手ご希望の方は宮入宅（☎〇二六八-八二-二九八四）または坂城町鉄の展示館（〇二六八-八二-一一二八）まで。定価二二〇〇円（税共）。

ふるさと自慢 第26回
●新潟県 郷土の食文化について

土肥 豊久

新潟独特のへぎそば

新潟県と言うと、コシヒカリがすぐに頭に浮かぶくらい、お米の産地として有名ですが、これは昭和三十一年に農林一号を親に誕生した新種のお米です。

粘りが強く、優れた食感と食味で今までにないほど美味しく、瞬く間に全国に広がりました。しかし、まだ六十年ほどしかたっていないお米なのです。

中でも魚沼産のコシヒカリは絶品であり、山間で昼夜の温度差が多い所が特に美味しいお米が採れるようです。でも、それまではなかなか美味しいお米はありませんでした。

新潟のお酒も、越の寒梅、雪中梅などが美食家の方や本で取り上げられて有名になりましたが、昔は食生活が一般に貧しく、漬物や塩鮭に合う味の濃い癖の強いお酒でないと好まれず、どれも皆個性的でした。

次第に美食の時代になってくると、お酒が食事の邪魔にならないよう、女性の方でもワイン感覚で飲めるような日本酒が好まれるようになり、それに合わせて造られた味に変わってきています。

海の幸では蟹、甘海老、ノドグロや、佐渡沖のイカ、サザエなど、日本海の独特の味が楽しめます。

特にノドグロの塩焼きは、タイのような白身の食感と甘味、パリパリの皮の香ばしさが筆舌に尽くせないくらい美味しいです。

川の幸なら鮎、山女魚、村上の戻り鮭。山の幸ではゼンマイ、ワラビ、タラの芽、ふきのとう、茸。果物は栗、柿、西瓜、梨、洋梨（ルレクチェ）など、季節ごとに色とりどりの食材が楽しめます。その食材を使ったお菓子や漬物なども素晴らしいです。

小千谷・十日町の蕎麦、栃尾の油揚げ、村上牛なども他県などからわざわざ食べに来られるほどで、リピーターも増えています。

蕎麦はフノリという海藻をつなぎに使っていて、喉越しが良く、海の風味と独特の食感が特徴です。

人情味が厚く、朴訥で優しい県民性も昔からのそれぞれの味を守っていると思います。

新潟にお越しの節は、ぜひいろいろな味覚を楽しんでいただきたいと思います。一度食べるとまた食べたくなる逸品ばかりです。

催事情報

会場によって休館日が異なります。事前に確認の上、お出かけください。
現下の状況で入場制限や、観覧するには予約を必要とする場合もありますので、それぞれのホームページをご覧ください。

■島田市博物館

〒427-0037 静岡県島田市河原町1-5-50　☎0547-37-1000
https://www.city.shimada.shizuoka.jp/shimahaku/

企画展「たゆたう刃文 きらめく沸」

刀　銘 助宗

相模国本国で作られた刀剣の、地景が入り沸が明るく冴える美しい作風は、刀剣の生産が盛んであった山城国や備前国、北陸や九州などの地方に伝播しました。「槍鍛冶」として名高い島田鍛冶は、多くの人や文化が交流する東海道筋にて、美濃風や備前風などさまざまな作風の刀剣を作りましたが、とりわけ相州風の、おおらかな湾れや、激しい皆焼の刃文を焼きました。

本展覧会では、全国に広がった相州伝の刀剣を一堂に集め展示します。大波のように湾れた刃文、星空のようなきらめく沸の、相伝の刀剣の世界をお楽しみください。

会期：1月14日㈯～3月19日㈰

■中之島香雪美術館

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4　中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階　☎06-6210-3766
https://www.kosetsu-museum.or.jp/nakanoshima/

企画展「館蔵 刀装具コレクション 武家の嗜好品」

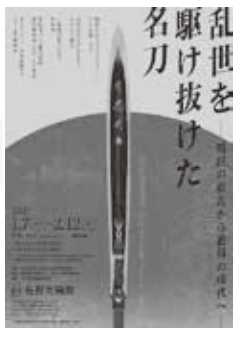
香雪美術館の所蔵品を収集した朝日新聞社の創業者である村山龍平（1850～1933）は、伊勢国紀州藩田丸領（現三重県度会郡玉城町）の武士の家に生まれました。鑑定に長じた父の影響もあり、若くして収集を始めた刀剣は、コレクション形成の原点となりました。それに伴い、刀剣の外装である拵を飾る鐔などの刀装具も集めました。それらは、鑑賞性の高い華やかなものよりも、実用性を重視した質実剛健なものが主流です。村山家に出入りしていた刀剣商・岸本正之助は、「社長は派手なものより渋いものがお好きでした」と述懐しており、武家ならではの村山の美意識が垣間見えます。

本展では、2020年に公益財団法人香雪美術館の前理事長・村山美知子より寄贈された600件以上の刀装具の中から選りすぐった約160件を一堂に紹介します。

会期：令和4年12月17日㈯～令和5年2月26日㈰

■佐野美術館

〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43
☎055-975-7278　https://www.sanobi.or.jp/



「乱世を駆け抜けた名刀 ―戦国の動乱から徳川の時代へ―」

日本各地に有力武将が並び立ち、鎬を削った時代、織田信長が長篠の戦いの褒美とした一文字、豊臣秀吉の遺物として藤堂高虎が拝領した大兼光、武田信玄の馬手差と伝える助宗、上杉謙信ゆかりの火車切、穂先に止まったトンボが真っ二つになったという本多忠勝の蜻蛉切の槍など、際立った個性の武将たちとともに乱世を駆け抜けた名刀が今に伝わります。

戦乱の世に終止符を打ち、実現された太平の江戸時代、徳川家康のお抱え工・康継をはじめ、各大名家のお抱え刀工が鍛錬した刀剣や、徳川将軍家伝来の名刀も併せてご紹介します。**会期：**1月7日㈯～2月12日㈰

■備前長船刀剣博物館

〒701-4271 岡山県瀬戸内市長船町長船966　☎0869-66-7767
https://www.city.setouchi.lg.jp/site/token/

テーマ展「刀装具 ―使う・見せる・彩る―」

刀剣には、安全に保管し、持ち運ぶための外装である「刀装具」が欠かせません。刀剣や刀装具は戦闘の道具としてのみならず、持ち主の身分や所属する集団を示すモチーフとして、あるいは持ち主個人の趣味嗜好を表現する装飾の一部としても機能していました。また、時代の流れの中で刀身がその姿や意味合いを変えたのと同じく、刀装具もさまざまに変化しました。

今回の展示では、刀装具の装飾性が高まった江戸時代の資料を中心に、その技巧的側面を解説するとともに、そこに込められた日本人の感性や世界観へも迫っていきます。「刀剣の見方」を同時開催。

会期：令和4年12月3日㈯～令和5年2月12日㈰

■致道博物館

〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町10-18
☎0235-22-1199　https://www.chido.jp/

「新収蔵品展―刀剣・美術工芸品を中心に―」

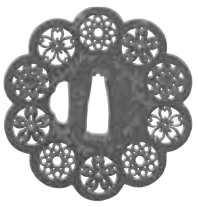
当館では昭和25年開館以来、庄内地方の歴史・考古・民俗・美術・工芸品など多岐にわたる数多くの資料や作品を収蔵してまいりました。当館の活動にご理解くださった方々からのご寄贈によるものも多くあります。いずれも当地の歴史や文化を知る手がかりとなる資料であり、常設展示の核となっているほか、テーマを設けた企画展の開催など、折に触れ出品しています。本展では、恒光（平安時代末期）、盛光（室町時代初期）、国房（江戸時代前期）、清人（江戸時代末期）らの作刀による刀剣、石川淡僊（静正）による水墨画や明治時代の油絵、日下部鳴鶴（明治～大正時代）、大滝雨山（大正～昭和時代）らの書蹟など、近年ご寄贈いただいた資料や作品約40点を紹介します。**会期：**1月26日㈭～3月12日㈰

■永青文庫

〒112-0015 東京都文京区目白台1-1-1　☎03-3941-0850
https://www.eiseibunko.com/

早春展「揃い踏み 細川の名刀たち ―永青文庫の国宝登場―」

刀の手入れをする細川護立氏


重要美術品
林又七 桜九曜紋透鐔
江戸時代(17世紀)永青文庫蔵

永青文庫の設立者・細川護立（1883～1970）は、禅僧の書画や近代絵画、東洋美術のみならず、稀代の刀剣コレクターとしても知られます。護立が刀の世界に本格的に足を踏み入れたのは、学習院中等学科在学中、肋膜炎にかかり休学していた10代のころ。細川侯爵家に御刀掛として出入りしていた肥後金工師の末裔・西垣四郎作や、細川家の家政所職員らとともに開いた研究会で刀剣の目利きを学び、審美眼を磨いていきました。

本展では国宝全４口をはじめ、「刀 銘 濃州関住兼定作（歌仙兼定）」など、護立の眼によって集められた名刀を収集エピソードとともに展覧。併せて、肥後金工の鐔など精緻な刀装具の世界も紹介します。

会期：1月14日㈯～5月7日㈰ 日時指定予約制

■ふくやま美術館

〒720-0067 広島県福山市西町2-4-3　☎084-932-2345
https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-museum/

福山城築城400年記念協賛事業 特別展 「名刀 江雪左文字 ―江雪斎、家康、頼宣が愛した刀の物語―」

「江雪左文字」は、南北朝時代に筑前国の刀工である左文字によって作られた太刀です。北条氏の武将、板部岡江雪斎から徳川家康、そして徳川頼宣へと受け継がれ、縁あって福山の地に伝えられました。

本展では、かつての持ち主たちが愛した品々とともに「江雪左文字」を展観し、この太刀に秘められた物語を紐解きます。

会期：2月4日㈯～3月19日㈰

■古河歴史博物館

〒306-0033 茨城県古河市中央町3-10-56　☎0280-22-5211
https://www.city.ibaraki-koga.lg.jp/soshiki/rekihaku/top.html

「かえってきた堀川國廣」

短刀　銘 國廣

新刀の祖と称されている安土桃山時代の刀工堀川國廣は、享禄４年（1531）日向国に生まれ、各地を遍歴して作刀の技を磨き、京都堀川一条に定住しました。足利滞在時は、後に古河藩主土井利勝に仕えることとなる長尾家のために、足利学校において鍛刀をしています。戦国末期の足利・館林城主であった長尾顕長は、後北条氏臣従の証として贈られた本作長義の写しを堀川國廣に作らせました。いわゆる「山姥切國廣」です。顕長は、小田原落城後、諸国を転々として元和７年（1621）に病死しましたが、顕長の子・宣景が土井利勝に仕官、土井家中となった宣景は、大坂の陣にて活躍、知行1200石を与えられています。古河藩土井家の家臣となった宣景以後の長尾家は、その後も土井家の上級家臣の地位を占め、後に家老を出すに至りました。

平成26年、國廣に着目して既に特別展「堀川國廣とその一門」を開催している古河歴史博物館では、初期江戸幕府の重鎮であった古河城主・土井利勝と長尾家の歴史的背景にちなみ、特別展「かえってきた堀川國廣」を開催することになりました。この展覧会から、國廣作品のさらなる魅力を再発見していただければさいわいです。選りすぐりの堀川國廣作品のみ25点を公開する本展、ぜひご期待ください。

会期：3月18日㈯～5月7日㈰

■京都文化博物館

〒604-8183 京都市中京区三条高倉　☎075-222-0888
https://www.bunpaku.or.jp/

特別展「知の大冒険 ―東洋文庫 名品の煌めき―」

東洋文庫（東京都文京区）は、1924年に三菱の第三代社長・岩崎久彌によって設立された、東洋学分野でのアジア最大級の研究図書館であり、世界五大東洋学研究図書館の一つです。

本展では、東洋文庫が有する約100万冊の蔵書の中から、国宝、重要文化財をはじめとする貴重な所蔵品約120件を展示します。教科書で見たことがある有名な書物や地図、絵画のほか、あまり知られていない文字や言語、服装、動植物など、まだ見ぬ新たな「知」との出会いが待つ東洋世界への冒険をぜひご堪能ください。

会期：2月21日㈫～4月9日㈰

令和5年1月15日発行　刀　剣　界　第65号

令和5年（2023）　謹賀新年　本年もよろしくお願い申し上げます

掲載は申し込み順です

飯田高遠堂
飯田　慶雄
東京都新宿区下落合3－17－33
TEL 03－3951－3312
URL http://www.iidakoendo.com

刀剣・小道具・鎧　刀剣杉田
代表　杉田　侑司
豊島区池袋2－49－5
TEL 03－3980－1461
FAX 03－3980－1463
メール info@token-net.com

刀剣・書画・骨董　株式会社　和敬堂
土肥豊久
土肥富康
新潟県長岡市柏町1－2－16
TEL 0258－33－8510
FAX 0258－33－8511
URL http://www.wakeidou.com

㈱日本刀剣
伊波賢一
〒105－0001
東京都港区虎ノ門3－8－1
TEL 03－3434－4321
虎ノ門ヒルズ駅A出口すぐ

刀剣・武器・武具　刀剣はたや
籏谷三男
〒194－0013
東京都町田市原町田3－14－14
TEL 042－729－2022
FAX 042－721－6080
URL https://www.toukenhataya.jp

刀剣・古美術・古書画　㈱日宝
代表取締役　田澤二郎
〒160－8321
東京都新宿区西新宿1－1－4
京王百貨店 新宿店6階 刀剣サロン
TEL 03－5321－5301（直通）

株式会社　安東貿易
代表取締役
安東孝恭
岡山県岡山市北区清輝橋2－1－32
TEL 086－226－1251
URL http://www.katana-ando.co.jp
刀剣チャンネル
→YouTube

拵合せ致します
日本刀鞘師　水野美行
〒160－0002
東京都新宿区四谷坂町6－1
TEL 03－3353－8810

やしま
齋藤雅稔
齋藤隆久
東京都西東京市柳沢6－8－10
TEL 042－463－5310
FAX 042－463－7955

銀座長州屋
東京都中央区銀座3－10－4
TEL 03－3541－8371

福隆美術工芸
FUKURYU FINE ARTS AND CRAFTS
代表者　綱取譲一
東京都中央区八丁堀3－1－3　飯野ビル1階
TEL 03－6280－4987

株式会社　刀剣柴田
柴田光隆
〒104－0061　東京都中央区銀座5－6－9
TEL 03－3573－2801
FAX 03－3573－2804
URL http://www.tokensibata.co.jp

吉高刀剣
代表　髙島吉童
東京都北区滝野川7－16－6
TEL 03－5394－1118
FAX 03－5394－1116
URL http://www.premi.co.jp

美術刀剣
勝武堂
東京都中野区本町4－45－10
TEL 03－3381－3071
info@shoubudou.co.jp
URL https://www.shoubudou.co.jp

銀座　盛光堂
齋藤恒
東京都中央区銀座8－11－14 盛光堂ビル
TEL 03－3569－2251㈹
URL http://www.ginzaseikodo.com

つるぎの屋
冥賀吉也
冥賀亮典
東京都北区西ヶ原4－35－1
TEL 03－3576－1753
URL https://www.tsuruginoya.com/

刀処
㈱永和堂
朝倉万幸
朝倉忠史
長野県長野市南県町1136
TEL 026－228－0001

刀剣・古銭・切手・古美術品　売買
㈱城南堂古美術店
代表取締役　田中勝憲
東京都目黒区上目黒4－31－10
TEL 03－3710－6776
携帯 090－3208－9612

刀剣研師　臼木良彦
〒135－0045
東京都江東区古石場1－2－7
TEL 03－3643－3228

刀剣・書画・骨董・茶道具
ギャラリーみそのう
御園生敏明
東京都江東区亀戸2－8－6　長谷川ビル1F
TEL 0120－000－388
FAX 03－5626－6134

株式会社　眞玄堂
〒101－0044
東京都千代田区鍛冶町1－7－17
TEL 03－3252－7844
FAX 03－3251－1419
メール info@samuraigallery.com

日本刀　販売　買取　有限会社　葵美術
代表取締役　鶴田一成
渋谷区代々木1－54－6
TEL 03－3375－5553
メール info@aoijapan.jp
URL http://www.aoijapan.jp

御刀研磨処楽屋
御刀研磨処楽屋で検索
研師　平井隆守
岐阜県関市
メール onkatana@d6.dion.ne.jp

株式会社　美術刀剣松本
東京西葛西店
松本義行
〒134－0088
東京都江戸川区西葛西6－13－14 丸清ビル3F
TEL 03－6456－0889

奈良県無形文化財保持者
月山貞利
〒633－0073
奈良県桜井市大字茅原228－8
TEL・FAX 0744－42－3230
URL http://gassan.info

川越　優古堂
三浦優子
埼玉県川越市新宿町1－9－13
TEL 049－249－0700
FAX 049－249－0702

美術刀剣、小道具の売買承ります
㈱コレクション情報
代表取締役　村上和比子
岐阜県岐阜市西川手7－89
TEL 058－274－1960
FAX 058－273－7369
URL https://www.samurai-nippon.net

刀剣・新古美術品
株式会社　宝古堂美術
代表取締役社長　山田雄一郎
東京都目黒区上目黒1－1－6
TEL 03－3792－0008

西日本甲冑交換会
籏谷大輔
東京都墨田区横網1－11－4
TEL 03－6456－1344

刀剣・小道具・甲冑、売買、工作及び相談承ります。
株式会社　むさし屋
代表取締役　猿田慎男
〒590－0025　大阪府堺市堺区向陵東町1－2－19
TEL 072－251－8600
FAX 072－257－2885
URL http://www.musasiya.co.jp

株式会社　金丸刀剣店
金丸一三
〒146－0095
東京都大田区多摩川2－5－1－502
TEL 03－3728－3323
FAX 03－6715－2882

武家文化の美と心
刀剣ギャラリー　樹林
代表　森野幸男
〒803－0812
北九州市小倉北区室町2－2－15
TEL／FAX 093－561－0449

札幌　横山美術
横山忠司
〒060－0053
北海道札幌市中央区南三条東1－6
TEL 011－251－7652
FAX 011－251－1788

株式会社　舟山堂
稲留修一
〒332－0011
埼玉県川口市元郷2－15－1－1309
TEL 048－222－8195

㈱晴雅堂清水
代表取締役
清水儀孝
〒111－0032　台東区浅草2－30－11
TEL 03－3842－3777

株式会社　山城屋
代表取締役　嶋田伸夫
東京都豊島区巣鴨1－21－8
TEL 03－3942－2701

銀座誠友堂
千代田区有楽町2－10－1　東京交通会館2階
TEL 03－3558－8001
URL http://www.seiyudo.com

株式会社　丸英刀剣
瀬下明
瀬下昌彦
栃木県小山市乙女3－7－30
TEL 0285－45－0158

木村美術刀剣店
木村義治
群馬県高崎市萩原町484－10
TEL 027－352－1590
FAX 027－352－1591

もちだ美術
持田具宏
さいたま市中央区上落合1－9－4－447
TEL 048－855－4792

服部美術店
東京都中央区日本橋3－5－12・2F
TEL 03－3274－5170

日本刀研磨・諸工作承ります
美術工芸武神
研師　黒田充弘
〒514－0022
三重県津市愛宕町158
TEL 059－261－1982
https://www.nihonto-togisi.com/

刀剣・小道具
美術刀剣　前田
店主　前田幸洋
〒577－0826
大阪府東大阪市大蓮北2－14－5
TEL 090－9621－8196

美術刀装具　石井
石井理子
〒639－2163
奈良県葛城市八川149－9
TEL 090－6236－8042

美術刀剣、小道具、武具類の売買、加工及び御相談承ります
大阪刀剣会
吉井唯夫
大阪市中央区日本橋2－7－1
TEL 06－6631－2210
FAX 06－6644－5464

阿雲亭
笹原俊和
〒869－2612
熊本県阿蘇市一の宮町宮地4375－1
携帯 090－3078－4044

銀座日本刀ミュージアム　泰文堂
川島貴敏
〒104－0061
東京都中央区銀座6－7－16 岩月ビル2階
TEL 03－3289－1366
FAX 03－3289－1367
メール taibundo@herb.ocn.ne.jp
URL https://www.taibundo.com

刀剣の店　玉山名史刀
玉山祐司・真敏
岡山市北区田町1－1－1
TEL／FAX 086－227－4188
URL http://www.t-touken.com

印刷／株式会社キタジマ